

令和6年7月12日

長与町議会 議長 安藤 克彦 様

議会運営委員会  
委員長 竹中 悟

### 委員会調査報告書

令和6年4月15日派遣承認された調査事件について、会議規則第77条の規定により報告します。

1 調査日 令和6年5月14日（火）～16日（木）

2 調査場所および調査事件（所管事務調査）

14日：北海道 幕別町議会

（議員定数の見直しについて）

- ①定数の議論が行われることとなった背景及び議論の手法
- ②賛否の状況とそれぞれの理由
- ③人口や地域の特性に基づく、議員定数を適切に設定するための視点
- ④定数を協議するにあたっての議員の業務負担と効率についての考え方
- ⑤定数を協議するにあたっての議員定数の性別・世代バランス、女性議員や若手議員の比率、多様性を尊重した議会運営についての協議状況

（議会運営・議会改革の取り組みについて）

- ①各常任委員会による政策提言について
  - （1）各常任委員会における重要テーマを設定した調査研究の活動について、これまでの成果及び改善点
  - （2）年間を通しての一貫した委員会活動（所管事務調査）のしくみ
  - （3）各常任委員会による政策提言に係る活動への議会運営委員会の関わり
  - （4）住民からの意見や質問を受け付ける仕組み及び政策化へつなげるしくみ
- ②ICTの導入状況、活用状況について
  - （1）電子表決システムの導入経緯
  - （2）電子表決システムの概要

15日：北海道 芽室町議会

（議会運営・議会改革の取り組みについて）

- ①議会活性化計画（議会白書）の策定・評価について
  - （1）議会活性化計画（議会白書）作成の目的・成果
  - （2）議会活性化計画の策定、評価を継続するための課題
  - （3）議会活性化計画の策定・評価について、議会を活性化するためのしくみ
  - （4）達成評価について、判断の客観性の担保

②政策形成サイクルの導入について

- (1) 政策形成サイクルの詳細、必要性、成果
- (2) 政策形成サイクルの導入までの議会の体制づくり

③政策提案の取り組みについて

- (1) 年間を通しての一貫した委員会活動（所管事務調査）のしくみ
- (2) 住民からの意見や質問を受け付けるしくみ及び政策化つなげるしくみ
- (3) 委員会の取り組みについて、その活動により達成された成果及び改善点

15日：北海道 帯広市議会

(議員定数の見直しについて)

- ①定数が議論となった背景と議論の手法及び賛否の状況
- ②人口や地域の特性に基づく、議員定数を適切に設定するための視点
- ③定数を協議するにあたっての議員の業務負担と効率についての考え方
- ④議員定数の性別・世代バランス、女性議員や若手議員の比率、多様性を尊重した議会運営についての協議状況

(議会運営・議会改革の取り組みについて)

- ① 政策提案の取り組みについて
  - (1) 議員政策研究会へ提言する政策に係る議員間の調整
  - (2) 政策提案の取り組みについて、市長部局が実際に取り入れている事例
- ② 市民意見交換会について
  - (1) 意見交換会での意見を政策提言につなげていくしくみ
  - (2) 委員会の取り組みについて、その活動により達成された成果や改善点
  - (3) 年間を通し一貫した委員会活動（所管事務調査）のしくみ
  - (4) 市民意見交換会の現状と課題について

### 3 派遣委員

竹中悟・堤理志・西田健・中村美穂・金子恵・山口憲一郎  
西岡克之（委員外委員）・安藤克彦（議長）

### 4 概要

①幕別町議会

人口 25,418人（12,622世帯） ※令和6年3月31日現在  
面積 477.64平方km  
議員定数 19人

②芽室町議会

人口 17,836人（8,036世帯） ※令和6年3月31日現在  
面積 513.76平方km  
議員定数 16人

③帯広市議会

人口 161,387人（89,871世帯） ※令和6年3月31日現在  
面積 619.34平方km  
議員定数 29人

## 5 所見

【委員長 竹中 悟】

### ①幕別町議会

＜議員定数の見直しについて＞

他市町議会との意見交換会や議会改革フォーラムなどを開催しながら議員定数の在り方について議論を重ねたが、議会運営委員会としては見解の統一に至らず、平成 29 年に議員発議により 1 名削減の条例改正案が提案され可決された。

議員定数は、類似町村等との比較検討に併せ、多様な町民意思を十分に反映でき、かつ合議制の機関として活発な議論が可能となるよう総合的な観点から決定すると定めているとのことで、定数検討に当たっての視点となる。

＜議会運営・議会改革の取り組みについて＞

議会報告会や各常任委員会による団体との意見交換会、議会 ICT 化の一環としてのタブレット端末導入検討など、さまざまな議会改革に取り組んでいる。

常任委員会の自主的な活動が先進的で、各常任委員会において、所管事項から重要活動テーマを設定し調査研究を深め、町に対し政策提言を行っており、行政ポイントの導入につながるなど一定の成果をあげているとのことであった。

### ②芽室町議会

＜議会運営・議会改革の取り組みについて＞

住民福祉の向上や町民から信頼される議会を目指して、議会運営方針が住民に関われ、分かりやすく行動する議会を具現化するために、毎年度議会活性化計画を作成、公表を行っている。その中で、任期 4 年間の改革・政策を進める取り組みを設計し、進捗工程の作成、自己評価、議会評価を行っており、これらは、毎年議会白書に掲載し公表。この他、通年議会を採用し、委員会活動を充実、活性化させている。

先進的な取り組みが多く、今後の議会運営、議会改革を進めるにあたり、本町に見合う取り組みを研究する際の参考となる研修であった。

### ③帯広市議会

＜議員定数の見直しについて＞

令和 5 年度から、定数の在り方について改めて協議を開始しており、人口、面積、財政力、市の事業課題、類似市等との比較、多様な市民意思の反映、合議制の機関としての役割等を踏まえた総合的な観点から進めているという説明を受けた。今後の定数議論における視点の一つとして、参考にしていきたい。

＜議会運営・議会改革の取り組みについて＞

委員会中心主義をとっており、通年議会に近い形で運営することにより、閉会中の委員会活動に機動性を持たせる環境を整えている。日頃の委員会活動を通じて議員活動、議会活動を積極的に実践し、また常任委員会とは別に全議員による「議員政策研究会」を設立し政策提言機能の分担を図っており、議会の活性化につながっているという印象を受けた。

## 【副委員長 堤 理志】

### ①幕別町議会

#### <議員定数の見直しについて>

現在の幕別町議会の議員定数は19人である。平成の大合併の時、旧幕別町と旧忠類村が合併をし、合併特例で30人の定数、そこから20人に削減、そして19人へと変遷が起っている。広大な面積を有する両自治体は合併する前は合わせて定数30人あったものが、現在19人ということであり、住民の多様な声が議会に反映できているのかの情報は得る事ができなかった。

幕別町と長与町とは、人口の推移、面積、合併の有無などさまざまな点で条件が異なるため、議員定数の在り方について参考になる部分は多くはなかったと感じる。

#### <議会活性化>

議会基本条例を制定するに当たって、平成22年からどのような方法で議会を活性化していくのか真剣に議論を重ねている状況であった。具体的な24件の検討項目を掲げ、調査を開始している点では大変な苦労があったものと感じた。

また、常任委員会の活動計画を策定している点は大変参考になった。定例議会だけでなく、その中間でもさまざまな課題、重要な活動テーマを挙げ、これらの論議を重ねて地域づくりにつながる政策提言を行っていた。

その他、地元の高校に出向き、高校生出前講座などを実施し、公職選挙法改正による選挙年齢の引き下げや、少子化の進展を背景に町内における高校が転換期を迎える中、将来社会に参加し、その役割を果たすことができるよう、シチズンシップ教育を進めるべきとの考えから、選挙管理委員会と協力し、平成30年度から高校生出前講座を実施していた。

#### <議場コンサート>

より多くの方に議会に足を運んでもらい、開かれた議会と議会を身近に感じてほしいとの思いから、平成28年から令和元年まで議場においてコンサートを開いていた。そこには東京都交響楽団など、トップクラスの奏者を招いて芸術鑑賞を行い、目的どおりの効果をあげていると感じた。

### ②芽室町議会

芽室町議会では議会活性化計画（議会白書）を策定し、また評価も行っていた。これは議会基本条例にのっとり、議会活動の内容を公表するもので、実行と評価について全議員で協議すると明記がされてあるとのことであった。議会運営方針が住民に開かれ、わかりやすく行動する議会を具現化し、そのことが住民福祉の向上や、町民から信頼される議会となることを目的に取り組んでいるとのことであった。また、活性化策ごとの進捗行程表を策定していて、その活性化策が達成されていくことが成果であり、議会の活性化とともに、住民福祉の向上につながるという明確な目標を立てている点は素晴らしいと感じた。（目標や課題が達成できなかったものについては、次年度に引き継ぐなど、継続性をどう維持していくかが課題との見解も示された）議会を活性化するに当たって、議員個々人の温度差についての質問は非常に大事な視点との認識を示した。

まず、何のために活性化を図るのかの目的の共有が重要と捉え、全員協議会などで情報共有と目的の確認、実施後の総括を行っていた。

## ＜政策形成サイクル＞

これは通年議会をフル活用し、特に委員会活動を活性化させる目的である。事務事業評価ベースのものと町民意見を起点とするものと、議会として予算・決算審査と連動させながら、政策協議をしていくものである。政策形成サイクルを毎年の議会活動の基本として取り組んではいるが、常に成果が出るものとも考えていないとのことであった。

令和元年度から5年度までの各1項目の政策提言を首長に対して施行した実績がある。この政策形成、サイクルを起動させ、機能させることによって年間を通じた委員会調査につながり、委員会活動の活性化につながるとの説明であった。

その他、具体的な手立てや考え方をまとめた丁寧な資料を頂いたので、これらを有効に活用、参考にする必要があると感じる。

## ③帯広市議会

4種類の資料と別紙資料等、丁寧な説明資料を頂き、分かりやすい説明を頂いた。議会の政策、提言などの取り組みは、今回訪問した他の議会で伺ったものと大きな違いはなく、十分な活性化の取り組みをされており大変参考になった。

ただし、帯広市議会の場合、会派制が敷かれ、議会の運営の仕方が本町議会とは異なる部分が少なくないため、そのまま本町議会に活用、当てはめることが適切かどうかは疑問が残るといのが率直な感想である。しかし、基本的な考え方については先進的な意識の高さがあると感じた。

## 《視察全体の所感》

議会が閉会中、所管事務調査を行うことで、議員個人の見識を深めたり町の事務を理解したりするにとどまらず、議会体、委員会として、課題や重要テーマを見だし、議論を重ね、これらに対する議会としての提言を行なっている点は先進的であるし、郷土を良くしようという熱い想いを感じ取ることができた。今回の北海道の3つの自治体の先進的事例は、今後の地方自治体のあるべき姿であると考えてに至った。

## 【委員 西田 健】

### ①幕別町議会

#### ＜議員定数を適切に設定する視点は何か＞

幕別町は、全体人口 25,418 人に対し議員定数が 19 人であり、本町と比較し議員数が多いのでは？と疑問を感じた。ただ、その疑問はすぐに納得が変わった。面積が、本町は 28.73 平方kmに対し、幕別町は 477.64 平方kmであり、本町の約 16 倍以上の面積である。私は単純に、人口をベースに議員定数を決定するものと思っていたが、これだけ広いと議員が活動する地域が限られてしまう。

幕別町では、議会基本条例において、議員の定数は人口、面積、財政力および町の事業課題ならびに、町村との比較検討をするとともに、多様な町民意思を十分に反映でき、かつ合議制の機関として活発な議論が可能となるよう総合的な観点から決定するものと定めていた。今後の参考としたい。

## ②芽室町議会

＜政策形成サイクルの詳細、必要性、成果について＞

通年議会をフル活用し、特に委員会活動を活性化させようというものである。「事務事業（評価）ベース」のものと「町民意見を起点とする」ものを、議会として予算・決算審査を連動させながら政策協議していくものと捉えている。しかしながら、「政策形成サイクル」を毎年の議会活動の基本として取り組んでいるが、常に成果が出るものと考えていない。令和元年度から5年度まで各1項目の政策提言書を首長に対して手交した実績がある。サイクルを起動させ、機能させることによって、年間を通じた委員会調査につながり、委員会活動の活性化につながるものと考えているとのことであった。

また、通年議会制のメリットとして、タイムリーに執行機関に対する事務調査が可能となり、委員会活動の充実に寄与しているとのことであった。

通年議会制に対しての個人的な感想としては、年間の活動にメリハリがないように感じられた。今後、メリットに関し調査しようと思う。

## ③帯広市議会

＜議員定数の考え方について＞

議員定数については、帯広市議会基本条例で「議員定数の改正に当たっては、行財政改革の視点を含め、市政の現状と課題、将来の予測と展望を十分に考慮するものとする。」

また、幕別町同様「議員定数は、人口、面積、財政力及び市の事業課題並びに類似市等と比較検討するとともに、多様な市民意思を十分反映でき、かつ合議制の機関として活発な議論が可能となるよう、総合的な観点から決定するものとする。」と定めており、個の規定に基づき議員定数を考える必要があるとのことであった。

上記から議員定数の検討については以下項目について論点とするとのことである。

### ◆論点（参考）

- ① 議会・議員が果たす役割と定数の関係をどう考えるか
- ② 人口・面積との関係をどう考えるか
- ③ 財政力・市の事業課題との関係をどう考えるか
- ④ 他市との関係をどう考えるか
- ⑤ 多様な市民意思の反映に必要な定数をどう考えるか
- ⑥ 活発な議論を行うために必要な定数をどう考えるか
- ⑦ 適切な定数は何名とすべきか

【委員 中村 美穂】

### ①幕別町議会

幕別町議会は議員定数の見直しを平成26年3月に制定した幕別町議会基本条例の規定に基づき、施行後の条例の検証を行った中で議員定数について別に検討が必要であるとし、平成28年3月から約1年間をかけて議会運営委員会で調査・検討を行った。この間、議員定数の削減を行った他市町議会との意見交換会の実施や、議会報告会や有識者による議会改革フォーラムを開催するなど町民の意見を聴取する機会を設け、現状案と1人削減の意見が出され、見

解の統一に至らなかったが、平成29年第1回町議会定例会で議員発議により1人削減するとして条例の改正案を提案し、可決された。

各常任委員会による政策提言を行っており、成果として主なものは、令和6年4月、町立認定こども園（保育所型）への移行や、令和5年8月、幕別町電子地域通貨まくP a yを導入し、令和5年8月、12月に利用額の30%のポイント還元を実施した。

平成23年6月に町長の町政執行方針で役場新庁舎建設の方向が示されたことから、庁舎建設に関する調査特別委員会を設置し、その委員会の中に議会機能に関する小委員会を設置し、モニターなどの視聴覚設備や電子採決システムは最新式のものを導入することにした。採決時のモニター表示が実際に議場でどのようなものか見せていただいたが、傍聴者にも賛成、反対の人数が分かり、賛否の明確さが表示されるのが良かったと思う。

## ②芽室町議会

芽室町議会は、通年議会制（5月1日から4月30日）をとっており、定例議会月（6・9・12・3月）以外にもタイムリーに執行機関に事務調査等が可能となり、委員会活動の充実に寄与している。常任委員会ではそれぞれ抽出事業（政策課題）を年度当初に決定し、先進地視察等、重点的な調査を実施している。その中から執行機関に対する提言につながることもある。

住民の意見を取り入れるため、議会モニターを採用し、平成24年から令和4年までに96人に委嘱し、任期を会計年度に改正し、報償費から報酬に改正して、1回3,300円を費用弁償として支出している。

議会だよりを毎月発行しているが、担当する広報委員会はない。記事の編集は議会事務局が協力しているようだった。この毎月の議会だよりを1年間分まとめたものが、議会白書として発行されている。

議会活性化のために、議会活性化計画を策定し、任期4年の中で設計、議会行動計画化、進捗工程表、自己評価、議会評価、年度間での比較など、議会の仕事を一つの事業と捉えているようであった。本町議会でも、まずはタブレット端末導入をすることができることから改革してみてもどうかとの意見を頂いたので、取り入れてみたいと思った。

## ③帯広市議会

帯広市議会は、定例会に上程される議案のうち委員会に付託すべき案件については、議案審査特別委員会に一括付託して審査される。定数は11人、審査日数は1日で、構成委員は各会派に人数枠を割り振り、会派内で協議し、委員名を議長に通告。予算、決算特別委員会もおおむね同様の考え方で実施。定数12人（最終日は11人）、審査日数は8日（予算）、7日（決算）で1日毎に委員の入れ替え可能。

議会として更なる政策提言機能の充実・強化を図るため、政策提言活動を専門に行う組織、議員政策研究会を設置した。全体会議は全議員、役員会議は正副議長、各会派の代表者1名、検討チームは原則12人。これまでの取り組みとして、帯広市がん対策推進条例の制定、帯広市食育推進条例の制定、子ども子育てを政策課題として検討チームにおいて調査・研究を行っている。住宅奨励費など。

市民意見交換会やおでかけ意見交換会（若年層、団体）も開催して、住民との意見交換を行っている。帯広市は人口も多く、会派制のため、本町議会とは異なる面も多いが、通年議会

なくても、閉会中も活発に行動できるとのことであった。

## 【委員 金子 恵】

### ①幕別町議会

本町においての定数見直しはこれまで協議を重ねてきたが、個人的には人口比などからすると削減するべきではないと考えている。幕別町議会において定数を設定するための視点として多様な町民意思を十分に反映でき、合議制の機関として活発な議論が可能な数とのことだが、一番重要な視点だと感じた。

議会運営・改革においては、政策提言ができる委員会として重要テーマの設定、調査研究を深めることで成果を上げている。長与町議会基本条例にも「政策提言」をうたっているが実行できていない部分であり、委員会としての活動を活発化するためにも今後取り組んでいきたいと思っている。

ICT化に関しては、電子表決システムを導入していたが、モニター活用で資料を映し出すことはしていないとのことだった。しかし、表決は各議員がどのような表明をしているのか一目瞭然であり、見える化の視点からは取り入れることも必要と感じた。

### ②芽室町議会

改革のデパート、個人的に議会改革の聖地である芽室町議会の取り組みに関しては、さすが議会改革上位の議会であることから学びが多い研修になった。

まずは、任期4年間を設計することに始まり、改革・政策を進める取り組みを行い、これに対する進捗工程表、自己評価、議会評価を行うことで活性化を図っていた。また、議会白書に毎年掲載しているとのこと。要するに「公表」である。これにはHP、議会広報紙での公表。広報に関しては、今の状況をリアルタイムで伝えることを念頭に毎月発行していることに頭が下がる思いである。徹底的にパクリ（TTP）の考え方で、多くの議会の良いとこどりをしてきた結果ということだったが、本町議会でどこまでパクリるか。一歩進んだ議会にするための努力はそこから始めたいと思っている。

また、芽室町は「通年議会」をしているが、これを活用し委員会活動をいつでも開くことができる。それにより政策討論会、政策協議と進め、最終的に政策提言も行っている。その後の進捗チェックなどサイクルを回すことでまたつなげているという取り組みは難しいと感じる点もあるが、少しでも取り組む体制を作りたいと感じた。

### ③帯広市議会

委員会として継続的に調査する事項を設定し、常任委員会としての質疑を行うという仕組みをとっていた。各常任委員会は政策提案機能を果たすため調査を行い、本会議での報告も実施しているという。この活動を専門的に行うため「議員政策研究会（全員参加）」を設立。政策提言機能分担をしている。また、通年議会に近い運営をすることで、閉会中の委員会活動を活発に行うことができるということだった。これは、機動的に動けることが目的とのことである。

縷々説明を受けた中で、共通する点は、日ごろから委員会活動を通じて議員、議会活動を積極的に行っていることに、長与町議会内の活動が足りていないことを痛感させられる研修とな



った。

## 【委員 山口 憲一郎】

### ① 幕別町議会

定数問題については、人口25,418人に対し議員19名は少し多いのかなと思ったが、面積が477.6平方キロメートルと広範囲であることを考えると仕方ないのかと思った。しかし、昨年の統一地方選挙において無投票であったことから、定数については現在検討をしているとのことだった。本町でも具体的な話し合いはしていないが定数を考えていく時期を迎えているのではと思った。

議会運営・議会改革の取り組みについては、議会改革の先進地でもあり熱心に取り組み活動されていることを感じた。一つだけ感じたのが「請願」「陳情」の取り扱いについては、町議会が受理したのち、委員会に付託審査を行い決定するとある。本町は「請願」は付託するが、「陳情」は議運でその取り扱いを決定することとしており、今の扱いでよいと思う。

タブレットについては、幕別町は今年度から導入とのことであったが、本町においても導入を考えており、別に遅れはないと思った。

### ② 芽室町議会

幕別町議会同様、議会改革の取り組みについては、積極的に取り組まれ熱意を感じた。視察の受け入れ対応として、毎回担当する議員を交代させて対応に当たらせておられ、議員のレベルアップのためにはいいのではないかと感じた。

芽室町議会では通年議会制をとっておられ、定例会以外も執行機関に対する事務調査等が可能となり、委員会活動の充実に寄与しているとのことでした。いろいろなメリットはあるようですが、本町においては継続調査も行って別に通年議会までする必要はないと思った。

意見聴取に関しては、町民意見交換会や議会モニター等から聴取する機会があり、各意見については委員会調査につなげるとのことでした。特に議会モニターについては興味を感じた。

### ③ 帯広市議会

帯広市議会においては、取り組みについて事務局長から説明いただき、それぞれ熱心に取り組まれていると感じた。特に、定例会に上程される議案のうち、委員会に付託する案件については、「議案審査特別委員会（2月は予算特別委員会・9月は決算特別委員会）」を設置し一括付託の審査を日数1日で行うとのことであったが、十分な審査ができるのだろうかという疑問を感じた。本町とまったく進め方が違うので興味を持った。

## 【委員外議員 西岡克之】

### ① 幕別町議会

議会改革への取り組みが、議員主導でなされているようだ。委員会活動が活発で、通年議会を取り入れて、定例会の間に委員会で調査研究が行われており、非常に興味を持った。ただ本町でも、現行法（所管事務調査）の手法で拡大して行えばできるのではないかと感じた。

議員定数については、合併自治体ということで考え方が少し緩いように感じた。別に「まくPay」という制度も興味深く、資料を頂いたので研究してみようと思う。

## ②芽室町議会

この自治体では、政策形成サイクルを導入しており、町の計画について、町民の意見を取り入れた所管事務調査や議員間討議を通じて、町に議会として政策提言しているのは、民意の反映につながるのではと感じた。

議会モニターに関しては、本町でも取り入れた経緯があったが、議会の多数の同意が得られずに行われたために、とん挫した経緯があるので懐疑的な見方で見ていたが、民意の捉え方がうまいのか今のところ機能しているようだが、モニターのなり手に苦勞しているようだ。

## ③帯広市議会

議事課長が、一人で長時間、熱心に説明をしていただいた。その中で、主に目を引いたのが、市民意見交換会だ。市民の方に意見を聞くシステムがあるようだ。子供連れの方には所管がきちんとお世話するシステムもあるようで、感心した。